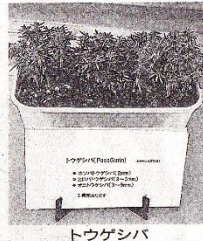
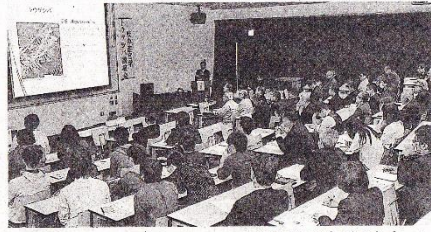


県産「認知症サプリ」来春にも

産官学、トウゲシバを活用

中間報告で研究発表



トウゲシバを活性成分として、認知症予防に効果的であることが、岐阜薬科大学の研究で明らかになった。中間報告は、岐阜薬科大学西

認知症予防に効果がある成分を含み、県内各地に自生するシダ植物「トウゲシバ」のエキスを使ったサプリメントの製造、販売に向けた産官学プロジェクトの中間報告が21日、岐阜薬科大学西

トウゲシバから抽出したエキスは、機能性分析や、山県市の群生地そばでの林間栽培などが進められており、本年度は試作したサプリメントの安全性試験が行われる予定。プロジェクトによる「トウゲシバ」に含まれる成分「ヒューベルジンA」には、脳の神経伝達物質の一つ「アセチルコリン」の分解酵素の働きを阻害する作用が確認されている。アルツハイマー病患者の死後の脳ではアセチルコリンの量が低下が確認されている。(古家政徳)

県産トウゲシバでサプリ

岐阜薬科大学と、河村病院、健康食品製造販売「アビ」、造園業「木の国」(いずれも岐阜市)の研究グループは、県内でとれたシダ植物「トウゲシバ」のエキスを使って認知症予防に役立つサプリメントを開発している。安全性の検査や臨床試験などを重ね、早ければ来年度の製品化を見込む。(兼村優希)



岐阜市産のトウゲシバ

認知症予防の効果に期待



左から野田、田中、田中、野田

岐阜薬科大など 製品化へ研究

トウゲシバは種類の多い野草。各地の森林に分布し、県内では岐阜市の近郊や高山市、揖斐川町などの山間部に自生している。環境を整え、岐阜薬科大学が中心。ただ、田中博士は「アルツハイマー病は、脳の記憶を維持する酵素「アセチルコリン」を増やす一方、記憶力を低下させる興奮性アミノ酸を抑制する効果があることは知られている」と話す。対象は軽度の認知症患者が中心。ただ、田中博士は「アルツハイマー病は発病の二十年前から脳で病気が始まる。予防のためには、何の症状もない通っているのは、中国産のトウゲシバエキスを使ったサプリメントの効果が期待できると話す。二十一日の記者会見は河村病院のもで、岐阜薬科大学の稲垣隆外担当で認知症専門の同部長は「認知症になるかわからない。岐阜学院客員教授」を中心に、二〇二二年の国産「トウゲシバ」のエキスを開発に取り組んでいる。健康寿命と平均寿命との差を小さくしていく。木の国が安定してトウゲシバを供給できる栽培だ。

シダで「認知症サプリ」

岐阜薬科大学（岐阜市）などは21日、県内に自生するシダ植物「トウゲシバ」を使い、「認知症サプリメント」を開発すると発表した。早ければ来春にも商品化される予定。

岐阜薬科大 抽出物質に効果 来春にも商品化

同大によると、トウゲシバに含まれるアルカロイドという成分から抽出した物質「ヒューペルジンA」

が、認知症に効果があると、アルツハイマー病は発病

の10〜20年前から始まるといわれる。今回開発するサプリメントは、健康時から飲むことが前提だとい

う。同大や県、県内企業などが2015年に「『岐阜産官学トウゲシバ』プロジェ



トウゲシバについて説明する原英彰副学長＝岐阜薬科大学

クト」を立ち上げ、商品開発をめざしてきた。国産のトウゲシバを使ったサプリメントは日本初だという。常緑の多年草トウゲシバは県内全域で見られるが、群生地が少ないのが課題。

植物工場などで栽培する計画もあるといい、稲垣隆司学長は「認知症患者の抑制は社会的な課題になっている。産官学で連携して成果を上げていきたい」と話した。（山野拓郎）